

## 資産運用レポート：ベイリー・ギフォードの日本株投資

### 1 はじめに

三菱UFJ国際投信の販売用資料に書かれていた、英国の独立系資産運用会社「ベイリー・ギフォード社」の投資哲学、銘柄を選ぶ10のチェックポイントが目にとまりました。

投資哲学は次の通りです。ここまで腹の据わっている資産運用会社は稀有な存在と言えます。

- 目先のEPS（1株当たり利益）やBPS（1株当たり純資産）に注目した投資判断を意識的に避ける。
- 企業の持つ競争優位や経営手腕の持続性を見極め、5年後、10年後の姿に焦点を絞る。
- 爆発的な成長（単年度の成長ではなく、何年にもわたる持続的な高成長）の可能性を秘めた企業に強い関心を抱く。
- 独自の技術やサービスにより急成長を遂げている企業への投資に当たっては、EPSに対して株価が高くても決してひるむべきではない。
- このような企業が事業運営に失敗した場合に損失が出ることを覚悟の上で投資を行う。

銘柄を選ぶ10のチェックポイントは次の通り。企業の長期的な成長を捉えることに主眼を置いている様子がうかがえます。

#### 【産業の魅力度】

- (1) 今後5年で売上が2倍になる余地があるか？
- (2) それ以降の見通しはどうか？

#### 【企業の競争力】

- (3) 競争優位な点は何か？
- (4) 企業文化は他社と明確に差別化されているか？ 事業環境の変化に順応可能か？
- (5) なぜ顧客はその企業を好むのか？ その企業の長期的な成長にとって最も重要な社会的要素は何か？

#### 【財務基盤の強さ】

- (6) 資本利益率は魅力的か？
- (7) 資本利益率は上昇するのか？それとも低下するのか？

#### 【経営陣の資質】

- (8) どのように資本配分をしているのか？（設備投資、配当や撤退戦略等）

#### 【バリュエーション】

- (9) 株価が5倍以上になる可能性は？
- (10) なぜ市場は見過ごしているのか？

「ベイリー・ギフォード社」は世界中の株式を投資対象としており、もちろん日本株にも投資しています。